

## ほほえみ 第37号



今年も、はやくも師走を迎えました。「ほほえみ」読者の皆様も、お忙しい年の瀬を迎えられていることと存じます。平成25年にも慣れないまま、一年を過ぎようとしていますが、個人的にはこの一年で、何かトピックがあったか思い返すと、どれほどのトピックもなく、ただ忙しかった気がします。読書したり、思考したりといった面で忙しかったように思うのですが、形としては残らないものなので、不思議な感覚がありますね。来年は、読書や思考より、文章を書く方を心がけたいと思います。来年が、皆様にとってよき年でありますように、お祈り申し上げます。

## 論理の戦い → 分化と統合

現在、日本のみならず、世界を見渡しても、そもそも日常生活を振り返っても、何らかの論理が支配しています。論理が先鋭化すると、多くの場合、自らが正義であると主張します。すなわち、国際問題では論理、その背景にある正義が問題にされており、さらに正義という言葉、政治哲学という言葉に置き換えることも可能です。つまり、おおもとを辿ると、哲学を争っているということです。

哲学、正義と云うものが、その立ち位置によって異なるのかということが問題です。人類に共通する正義を議論するならば、正々堂々と議論として成り立ちますが、どうも、いろいろな場面で議論がかみ合わないということは、各自のよって立つところが怪しいということでしょうね。バベルの塔では、人間は言葉を通じなくされたのですが、今、言葉は沢山に分かれてなお、言葉の持つ概念そのものが多義性をもっている、という悲惨さがあるようです。

哲学は古い学問で、全ての学問の根幹ともいえますが、太古の時代には学問の種類も少なく、分化していなかったと思われます。最も早く、哲学から分化した学問は、言葉を扱う学問で弁論術(修辞学)といえます。哲学と弁論術を分けたのはソクラテスですが、結局、人間の行為と言論を分離することが正解だったのか疑問です。哲学はよき行為を扱い、弁論術はよき言葉を扱うということですが、行為と言論は、肉体と精神のように不可分に思われるからです。

弁論術(修辞学)からはさらに時代が進むにつれて、政治学、社会学や心理学といった様々な社会科学が分化して、19世紀ごろの修辞学というのは、やせ細って、言葉の技法のように些末な学問とされるに至り、学ばれなくなりました。日本には、このやせ細った修辞学が明治期に紹介され、あまり重要な学問とはみなされなかったようです。

修辞学の源泉である弁論術、さらに遡って、哲学と弁論術を融合したもの、これは人間学とも呼ぶべきでしょうか？ この原点に回帰するというのも重要な発想だと思います。ベルギーのペレルマンが、古代の弁論術の重要性を再認識し、今こそが、レトリック(弁論術、修辞学)の必要とされる時代であると言いましたが、あるいは彼の方向性をもう一歩踏み込むならば、哲学と弁論術を融合した、人間学が必要な時代であると思われます。

この哲学と弁論術の一体化とアナロジーの関係にあるのは、フェルト・センスです。フォーカシングに関して、以前に書いたことがありますが、フェルト・センスとは、意識と肉体の融合したようなもの、さらに無意識をも内包するような存在感です。結局、様々な学問がありますが、総合的な存在としての人間という、この原点に回帰するということになるのではないのでしょうか。

今年の最後のニュースレターの文章ということで、ちょっと難解になってしまいました。申し訳ありません。



## 膵癌に対する治療薬の承認状況

膵癌に関しては、現在、ゲムシタビン、ティーエスワン、エルロチニブが承認されている薬剤です。現時点で、承認申請が行われている薬剤は、FOLFIRINOX療法(オキサリプラチン、イリノテカン、ロイコボリンを含む併用療法)と、アルブミンに結合した形のパクリタキセル製剤であるアブラキサンです。いずれも、標準療法であるゲムシタビン単独に対して、優位性を示したのですが、副作用的には、それなりに強くなるのではと思われます。特に、FOLFIRINOX療法は、骨髄抑制も強くなりますし、自覚的な副作用もかなり強くなるのが懸念されています。

そろそろ、承認に関する結果が出てきそうな気はするのですが、今のところ承認されるか否かや、使い方に条件が設けられるのかなどはわかりません。世界的に見て膵癌に治療は、急速に併用療法や、用量強度を上げる方向に進みつつありますが、臨床試験段階でも副作用が重篤になってきているので、臨床試験の場合より、体調がややすぐれない方も多い、実際の臨床場面では、どのような使い方ができるのか、承認後も議論となりそうな雲行きです。



## 帰省ラッシュ

年末・年始は帰省ラッシュのシーズンです。最近インターネットで、新幹線の切符でも、飛行機の予約でもできてしまう世の中です。JRの切符などは、普通は一か月の発売ですが、なんと、インターネットではさらに一週間遡って予約できるということがわかりました。

学生の頃は、年末に列車の通路に立ちながら帰ったことがほとんどでしたが、もしかすると、今では大学生の方が、スマートホンでさっさと予約できてしまい、インターネット環境にない方が、切符を取れずまいになるという可能性もありますね。インターネットは便利ですが、ある意味、社会的に共通意識が醸成されないまま、先に進んでいく感じがあって、公正さが失われている印象も持ちました。



## MEMO

### 12月のがん化学療法科の予定

12月13日	柴田教授外来
12月20日	新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ
12月27日	柴田教授外来
12月23日	天皇誕生日
12月24日	クリスマス・イブ
12月30日	外来化学療法を行います
(1月2日)	外来化学療法を行います



『ほほえみ』3周年記念として、11-12月は、復刻版をがん化学療法科外来にて、見ていただけるように致します。また、ご希望の方に、復刻版を差し上げる予定です。